

ゆうメール

도토리통신

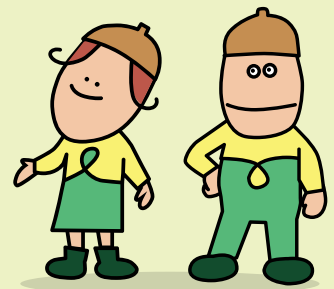


ととり通信 第26号



〈 目 次 〉

- 第8回交換授業が行われました! 2
- 代表者懇談会を行いました! 4
- 【新コーナー】朝鮮学校を知ろう! 6
- 事務局ほのぼの便り 熊本拓矢さん 7
- 朝鮮学校応援グッズ紹介、カンパのお知らせ、連絡先 8



第8回 交換授業が行われました！



2021年10月30日に愛知朝鮮中高級学校にて、公開授業と日本の学校の教員や弁護士の方々が朝鮮学校の生徒たちに授業を行う「交換授業」を開催しました。

●当日のスケジュール

9:00～9:45	朝鮮学校教員の授業（公開授業）
10:00～10:45	交換授業
10:50～11:20	交流会
11:30～12:30	生徒による公演
12:40～13:20	懇親会（関係者）



●内容

	公開授業	交換授業	
中1	数学 (反比例)	理科 (燃える食べ物、燃えない食べ物)	久田晴生先生
中2	社会 (産業革命)	社会 (ちょーみん先生の『三酔人経論問答』を読もう)	岡田昌人先生
中3	英語 (「Electronic Dictionaries-For or Against」より～間接疑問文について～)	理科 (電気をつくる)	松井宏介先生
高1	物理基礎 (波動)	理科 (温度と物質の性質～液体窒素と超伝導)	原科浩先生
高2(1組)	社会 (第2次世界大戦以後の国際経済関係)	社会 (「ブラック」な働き方にならないために～正しいワークルールを知ろう～)	矢崎暁子弁護士
高2(2組)	英語 (「Running under Two Flags」より～仮定法 wish について)	社会 (感染症と差別-ハンセン病問題との連続性とコロナ禍の特殊性)	山本崇記先生
高3(1組)	日本語 (四面楚歌・漢文)	社会 (社会にすりつぶされないための労働法)	仲松大樹弁護士
高3(2組)	現代朝鮮歴史 (「愛国運動の新たな発展の為に」より～歴史的書簡～)	社会 (近代日本のアジア認識)	樋口浩造先生

参加者の感想



松井宏介さん

交換授業への講師としての参加は今回で6回。毎回、勤務校で借用した実験道具をキャリーバッグに詰めて学校への坂道を登っていく。年齢60を超えた私の息は上がる。しかし、授業で物が動いたり、音が鳴ったり、電球が光ったり…したときの生徒の反応を見ると、帰りのキャリーバッグはとて軽く感じられる。今回は、授業後に交流会が設定され、学生からの質問に応える場面があった。質問の内容は、教員になった理由に始まり、趣味のスクーバダイビングのこと、人生で一番辛かったこと、勉強することの意味…など多岐に渡った。理科に関する質問は一つもなかったが、むしろそれが良かった。上手に質問を引き出してくれた担任の先生に感謝している。カムサハムニダ！

2年ぶりの交換授業参加への喜び

静岡大学 山本崇記さん

今回、「感染症と差別-ハンセン病問題との連続性とコロナ禍の特殊性」というタイトルで、高校2年生を担当しました。2年ぶりに高校生たちの前で話してきたのは望外の喜びでした。この間、大学生や社会人の方々に授業や人権研修などで話題にしてきた現代的課題を、ハッセンたちと考えたいと思いました。偏見や差別が社会を覆う中、私たちの身近な歴史の中に、感染症に対する強烈な差別とそれに対する当事者の克服への実践があったことを共有することができたように思います。高校無償化制度の被害当事者でもある子どもたちの強いまなざしに緊張感を覚え、考えさせられる機会となりました。

愛知県立大学4年 坪井佑介さん

愛知朝鮮中高級学校には運動会や芸術公演の見学で訪問させていただいたことがありますが、授業の見学は今回が初めてでした。交換授業では、労働法や働き方といった話題から感染症差別の問題等、興味深いトピックが扱われていました。中でも印象的だったのは、理科の授業で科学実験を行う生徒達の真剣な眼差しです。大学教授や専門家による普段とは一味違う授業を楽しんでいる様子が伺えました。コロナ禍で人と直接触れ合うのが難しい時期が続いていますが、交換授業の講師と朝鮮学校の生徒が活発に対話や質疑応答を行い、面白い意見が飛び交う様子を見てみると、やはり様々な人との交流が互いの視野や考えを広げ、よりよい社会を築いていく上での第一歩になるのだと感じました。

静岡県高校教員 岡田昌人さん

今回交換授業にお声がけいただき、われにもなく緊張してしまったことを思い出します。このコロナ禍で、ずいぶん心が萎縮してしまったようで、外界に対してすっかり臆病になった自分が居ました。久しぶりに桶狭間の坂を上り、愛知中高の懐かしい校舎を目にしたとき何か優しく溶けて流れ出す感覚に襲われたものです。そして授業が終わって、体育館での舞踊の律動に身を浸しながら、文化というのは、あたかも貝の中で、長い時間かけてはぐくまれていく真珠のようなものなのだなあ、ととりとめの無いことを考えていました。いつも何かを感じさせ、発見させてくれる愛知中高交換授業、次に訪ねられる日を心待ちにしています。

矢崎暁子さん

私の授業のテーマはワークルール（労働法）。初めに労働法の〇×クイズにチャレンジしてもらったら、すぐに答えを完成させる子、じっくり悩む子、それぞれの個性が出ていた。先生が一番時間がかかっていたかな？感想交流会では、バイトでやめておいた方がいい業種はあるか、自分がブラックな雇い主にならないためにどうしたらいいか、などかなり実践的な質問が出た。自分の将来の姿を想像できるのは本当に素晴らしい。今度は、通信販売や悪質な勧誘から身を守るための消費者法をテーマにしようかな。授業や芸術公演での学生の姿はかわいかったし、オモニ会お手製のお弁当もとっても美味しかった。また行きたい。

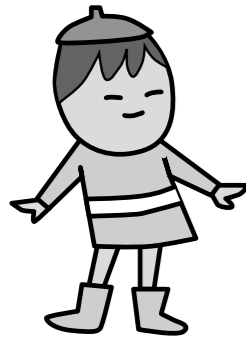


代表者懇談会を行いました！



2021年12月1日に今後の朝鮮学校支援を考えるために、関連団体との意見交換を行いました。愛知中高、オモニ会、女性同盟、朝青、青商会、留学同東海、ととりの会から代表者が集まりました。

参加者からの感想と今後の抱負



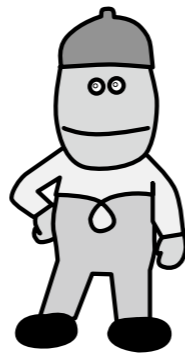
三浦綾希子さん（ととりの会 事務局長）

懇談会では、それぞれの団体で行なっている活動について報告した後、今後どのような連携が可能かについて話し合いました。すぐにでも共同で行える活動として、新校舎移転に伴う引越し作業の手伝いや学校美化活動が挙げられました。また、様々な交流イベントも今後連携して行なっていくことを確認しました。

懇談会を通して、まずは多くの人にととりの会を知ってもらうことが重要だということに改めて認識しました。日常の関わり合いから「顔の見える関係」を築くことが朝鮮学校支援の発展・拡大には必要です。今回の懇談会は、そのための大事な一歩となりました。

全裕誠さん（留学同東海 副委員長）

留学同東海では、朝鮮半島にルーツをもつ大学生、専門学校生が集まり、民族について学んだり、権利擁護運動に携わったりしています。無償化ネット愛知および「ととりの会」とは先輩方の代からの長い付き合いで、留学同は本当にいろんな面からお世話になっておりました。昨今は感染症の影響で地方間だけではなく、留学同と、ととりの会といった同じ地方の団体間の連帯ですら弱まってしまっているように感じられます。そんな中で行われた今回の懇談会は、お互いがウリハッキョのために何をしたいのか、何ができるのか、そういった考えを共有し、議論する貴重な機会であったと思います。留学同はこれからも学生だからこそできる形の支援を模索し、他団体と連帯しながら実現に向けて頑張っていきたいと思えます！

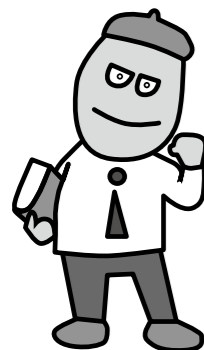


鄭一輝さん（朝青愛知県本部）

この度懇親会に参加して、今後ウリハッキョの民族教育をより発展させていくためには、日本の方々の支援が必要不可欠であることをひしひしと感じました。

今まで、朝青とくととりの会>が一緒になって何か行動を起こすということが全くなかったので、今回の懇親会は、朝青とくととりの会>がウリハッキョ発展のためにどのように協力していくべきかを考える有意義な場となりました。

これをきっかけに、今後<ととりの会>事務局との連携を積極的に行い、朝青とくととりの会>が協力してウリハッキョ発展のためにできることを考え、実行に移していきたいと思えます。



権容子さん（愛知中高オモニ会 副会長）

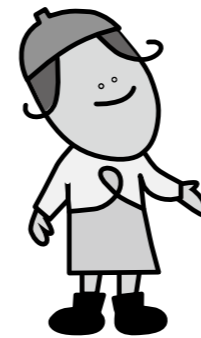
私は愛知中高オモニ会の副会長として、今回初めてとなるととりの会の懇談会に参加する事になりました。

まず参加して改めて思った事は、ウリハッキョの事を思っていて活動してくれている日本の方達がこんなにいてくれるんだ、と強く感動し感謝の気持ちでいっぱいになりました。

幼い頃から当たり前前に朝鮮学校に通い、今は子供達を当たり前前にウリハッキョに通わせる学父母である私よりも、朝鮮と在日コリアンを理解してくれて子供達の事を考えてくれ、手弁当で報酬がある訳でもないのに、ここまで親身になってくれる方々がいる支援団体がある事は本当に励みになります。

ととりの会の方々とお話をすると自分自身の不足を感じ、恥ずかしい気持ちにもなりましたが今後個人的にもっとお話をしたり、交流を深めたくもなりました。

これからもこの日本社会で在日コリアンとしての道を歩むであろう子供達が生きやすい社会を作っていけるよう、その為の活動をオモニ会を通してはもちろんの事、自らも今まで以上に頑張っていこうと強く思いました。



呉賢圭さん（在日本朝鮮愛知県青年商工会）

僕は「ととりの会」について、朝鮮高校の高校無償化裁判敗訴確定後に発足したこと、朝鮮学校のために活動してくれていること、愛知朝鮮中高級学校と交換授業を行っていることくらいしか知りませんでした。「ととりの会」のメンバーにはどんな方々がいて、どんな思いで活動をされているのかは正直知りませんでした。

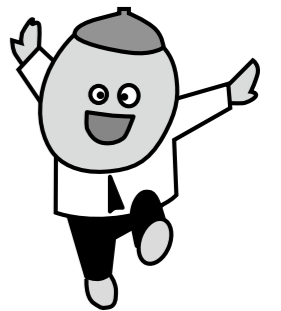
「ととりの会」のメンバーには、日本の大学や高校で教授や先生としてお仕事をなさっている方々がいらっしゃいました。僕は、先生方の朝鮮学校支援に対する熱い思いに感銘を受けたと同時に、今まで「ととりの会」に対してある意味無関心であった自分が恥ずかしくなりました。朝鮮学校やそこに通う生徒たちを支援してくれる、日本人の方々についてもっと関心を持たなければいけないと深く思いました。

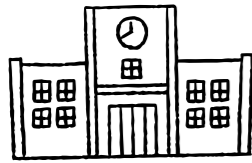
「ととりの会」の方々が、何を思って朝鮮学校に通う生徒たちを支援して下さるのか、何を考え、どんな活動をしているのか。そして僕たち青商会の考えや活動を発信し、お互いを知ることによって、国籍や立場を超越して本当の仲間になりたいと思わせていただきました。

「ととりの会」としてのスタートに立つことができたと思える、有意義な会になりました。

民族教育の未来をともにつくるために何が出来るのか、まだまだ手探りではありますが、まずは「目の前のできることをやってみる」「顔の見える関係をつくる」ことから始めたいと思えます。

そのために、会員のみならず皆様からも様々なご意見をいただけたらと思えますので、これからどうぞよろしくお願いいたします！





朝鮮学校を知らう！

朝鮮学校についてどれくらい知っていますか？
実際に朝鮮学校の先生や関係者の方からの「生の声」をお届けし、
朝鮮学校の「今」を知るコーナーです。

記念すべき第1回目は愛知朝鮮中高級学校の権慶模先生に
新校舎竣工へ向けた思いを綴っていただきました。



五十にして天命を知る

愛知朝鮮中高級学校 権慶模先生

儒家の祖、孔子は説いた。

『吾、五十にして天命を知る。』

「私は、五十になって天から与えられた使命を自覚した。」とのことであるが、気がつけば私の人生も50年という年月が流れてしまった。

その50年の大半を、ここ豊明市栄町南館で過ごすなど誰が想像できただろう。

1984年4月、愛知朝鮮中高級学校(愛知中高)中級部に入学、1990年の高級部卒業後、東京での2年の大学生活を送り、1992年に再び母校へ教員として赴任し気がつけば今年で勤務30年…

実に36年もの間、私はこの愛知中高にお世話になっている。常はこんな感慨めいたことなど露ほども思ったことはなく、ただいたずらに時を過ごしているのだが、改めて振り返るとなかなかレアな、いや激レアな経験だと思う。

吹奏楽部に入り、年がら年中「うるさい!吹奏楽部!!」と散々言われながらも部活に明け暮れ、また行く末を案じ思い悩んだ時、親身になり「迷わず行けよ!」と私の背中を押してくれた恩師達の献身的な愛情により、青春を謳歌した愛知中高での学生時代の6年、また社会人となり音楽教師として母校で教鞭を執り、微力ながら民族教育発展の一翼を担い、受けた恩に報いるため持てる力の全てを捧げている(つものり)愛知中高での教員としての30年の日々。

何という運命のいたずらか私の人生の大半は、愛知中高なくしては語れないものとなってしまった。

まさに我が人生の愛知朝鮮中高級学校。喜ぶべきか、悲しむべきか…

そんな戯言はさておいて36年の中で、とりわけ長きに渡るのはやはり教員生活であるが、人生の大半をここで過ごした私にとって全ての「人生訓」はこの愛知中高で培ったと言っても過言ではない。

先輩教員には厳しいながらも温かい眼差しで見守られ叱咤激励を受けながら「教員」の何たるかを教わり、また歳を重ねるごとに増える後輩教員と一緒に働く事となった教え子達の、仕事に打ち込む直向きな姿が過去の自分の行いを振り返るきっかけを与えてくれた。

文字通り、教員一丸となり心血を注ぎ愛知中高の発展、ひいて



は民族教育の発展に尽くしてきたと自負している。

愛知朝鮮中高級学校が創立し、74年が経とうとしている。そして、ここ豊明市栄町南館に居を構え61年が経つ(ありがたいことに私は、そのうち36年間ここでお世話になっている…)。

その愛知中高が新校舎竣工という新たな門出を迎えようとしている。

それは愛知県民族教育のさらなる発展が求められるということでもある。

この執筆中は名古屋朝鮮初級学校及び、附属幼稚園の4月の移転開校に向けての校舎建設の真最中である。

しつこいようだが私は人生の大半をこの愛知中高と共に歩んできた。

新校舎竣工への期待に胸が膨らみながらも、慣れ親しんだ現校舎及び、関連施設が無くなることや取り壊される様子をまじまじと見ると一抹の寂しさを覚える。

しかし、そんな感傷に浸るより未来へ向け、新たな飛躍のため前向きな姿勢で校舎建設を見守らなければならない。

私は学生時代に愛知中高で受けた恩に報いるため、教員を志し微力ながら持てる力を振り絞り一身を捧げる決心をしたが、果たして「初志貫徹」できているのだろうか。

教員となり、多くの生徒を導いてきたが、私はその生徒達から数多くのことを学んだ。

それが結果として私の教員生活を長く維持させる事となった。生徒達の感謝と労いの言葉に私がどれだけ救われたことか。

生徒の何気ないそんな一言、それは私が自分自身を見つめ直すきっかけにもなった。

私は生徒と真摯に向き合っているだろうか、生徒の不安を振り払ってやれただろうか、生徒達にあらん限りの愛情を注いであげただろうか…

そんな自問自答から得た「反省と教訓」が私の教員生活を長く維持させるもう一つの要因となった。

新校舎竣工により新たな歴史の1ページを刻む愛知県の民族教育事業発展に於いて、今後の私の教員生活が少しでも寄与できるのならば、本望である。

巣立った卒業生や民族教育発展に励んだ同僚達に恥じぬよう「天から与えられた使命」を自覚し、先の見えはじめた教員生活ではあるが、初心忘るべからずで粉骨砕身しよう。

事務局

ほのぼのの便り

熊本拓矢さん

はじめまして。弁護士の熊本拓矢と申します。昨年から日朝教育・文化交流をすすめる愛知の会の事務局に参加し、この度、とりの会にも参加させていただきました。弁護士になって4年目です。弁護士登録をして最初の仕事で、末席に加えていただいた愛知無償化弁護団の控訴審第1回期日でした(2019年12月12日)。これからも朝鮮学校の支援や、在日朝鮮人の方々をはじめとして外国籍の方々の人権にかかわる事件に取り組んでいきたいと思っています。

私が、在日朝鮮人の方々をめぐる歴史や人権の問題に触れる機会を得たのは、ほとんど全くの偶然からでした。中学・高校時代を過ごした90年代後半に、新聞報道を通じて従軍「慰安婦」問題などについて触れていたこともあったかもしれません。しかし、大学の入学式の翌日、祖父からもらった入学祝い金をにぎりしめてたまたま飛び込んだ焼肉屋「新羅」(しるら)との出会いとそこでの8年間のアルバイトが、私に多くを与えてくださいました。

お店は京都の三条河原町にありました。小さなビルの2階、座敷に16人ほど、カウンターに7人ほどの席。店主で2世のオンマとアルバイト1名、ときどきアッパの3人で切り盛りする、とても美味しい生レバーと塩タンが売りのお店でした。

もともとは京都の南にある長岡京市でお店を開いていたところ、京都市職員に向けた人権研修で講師を務めるなどしたオンマが、特に京都市職員の方々から「在日の人権問題についてもっともっと知ったり語り合ったりする場所を京都市の中心街に作ってほしい」と請われて、1999年に京都市役所と目と鼻の先にある三条河原町に移転したと聞いています。実際、お店は市職員の常連さんたち、オンマの友人や親戚、大学教員やジャーナリスト、近隣の木屋町や先斗町のお店で働いているの方々、そして観光客などでにぎわっていました。

小さなお店が満席になると、お肉からの煙、お客さんたちの歓談の声、次々と飛ぶ注文、オンマからバイト(私)への怒声(?)で息つく間もなく、それは「戦場」のようでした。夜中0時すぎまで洗い物をして、それから木屋町でオンマと晩ご飯を食べて帰る、そんな日もよくありました。桜の春も、酷暑の夏も、紅葉の秋も、底冷えの冬も、京都の中心に



あるお店でバイトをしていました。

BSE問題があってお店も打撃を受けたと思います。夜8時になっても一人もお客さんが来ない。バイト(私)は油の染み壁の拭き掃除。そんな日もよくありました。それでもオンマは、常連さんたちと一緒に店や市の施設で人権にまつわる勉強会を開いたり、春と秋には嵐山で花見・紅葉の会を開いたりして、お店を通じてつながった方々とのつながりを大事にしてお店を続けてきました。

お店には1世のハルモニもときどきいらしていました。もうご高齢のため、京都の繁華街で道に迷ってしまわれて路上で警察に保護されたところを、私が店からエプロンを付けたまま走って迎えに行くこともありました。3世の高校生の娘さんには、店の奥で家庭教師をしていました。大学生の私には、まかないのピピンバ、チゲ、焼肉が何よりのご馳走でした。

お店は2019年、20年の営業に幕を閉じました。毎日毎日、夜遅くまで一人手で店を切り盛りし、家族の生活を支え、ハルモニの介護をしてきたオンマも、もう70歳。どれだけ「気張って」こられたことでしょうか。いまは改装した自宅1階で悠々自適にお店を続けられています。

オンマには「あんた、ほんまあほやな〜。ほんまかなわんで〜。」といつも叱られてばかりでしたが、大学生になったばかりの未熟な私、人生の進路に迷って長く苦しんでいた私を、しつくて育て、けっして突き放すことも手放すこともなく、いつもいつも暖かく見守って支えてくださいました。

一生懸命に生活をされながら、家族と店を背負って支え、知己を得た方々へ惜しみない愛情を注ぎ、「在日」のことをこの社会で知ってもらい共に生きる場を創り続けてきたオンマ。そのオンマの姿をいつも見て育ててもらった私。

今度は私の番。

そう思って頑張りたいです。どうかよろしく願いいたします。

ととりの会からのお知らせ

朝鮮学校応援グッズ
引き続き販売中!

クリアファイル
2枚セット
...500円

オリジナル付箋
...300円



購入希望の方、または、集会などの折に販売にご協力いただけるようでしたら、
下記までご一報ください。

ととりの会では、朝鮮学校の支援のために『ととり通信』の発行のほか、
さまざまな集会、学習会、街頭宣伝、署名、広報リーフレットや応援グッズの
作成など多彩な活動を行っています。

これらの活動にはみなさまの会費及び賛同者の方々のカンパが大きな
力となります。

みなさまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

会費納入および
カンパのお願い

〈会費〉1,000円/年 会費とカンパのお振込みは、下記の郵便振替口座または預金口座となります。

① 郵便振替払込口座 〈口座番号〉 00810-9-198143

② 他金融機関から
ゆうちょへの振込 〈銀行名〉 ゆうちょ銀行 〈店名〉 089 (ゼロハチキュウ) 〈店番〉 089
〈預金種目〉 当座預金 〈口座番号〉 0198143

※ ①②とも〈名義〉 朝鮮高校無償化ネット愛知 (新口座に変更まではこちらにお願いいたします)

【連絡先】 愛知県豊明市栄町南館 55
愛知朝鮮学園内 ととりの会 金伸治
Tel : 0562-97-1815 Fax : 0562-97-1829
Mail : totorinokai@gmail.com

ととり通信 26号

2022年3月6日 発行

発行・編集：民族教育の未来をともにつくるネットワーク愛知 ととりの会

URL <http://mushouka.aichi.jp/>

e-mail : totorinokai@gmail.com

FAX : 0562-97-1829

デザイン：(株)アトリエ・ハル